

## Ⅶ 自由記述

### 1 老人保健施設の看護で一番大切なこと

#### 1) 入所者の身体的ケアに関すること

##### 健康管理，異常の早期発見 (95)

- 特別な医療器具は老人保健施設にはありません。日々，私たちのもてる五感をフルに活用し，お年寄りの健康管理とQOLの向上を目指したい。
- 入所者の日々の変化を速くキャッチし，対応できるよう寮母さんの意見や看護婦の観察・報告を受けている。
- 入所者の大半が障害を持ち，また，高齢者であるため，常日頃の身体の状況を把握し変化を見逃さないような観察力と判断力が大切。
- 相手が老人であるため観察を十分に行い，異常を認めたとときの対応は速くと心がけています。
- 老人の状態把握のため，ベットサイドにいる時間を多くしたい。
- 入所者の日常の健康状態をよく把握し，異常など状態変化に迅速に対応できるよう日頃から心がけること。
- 高齢者のため，体の機能が低下し，病気にかかりやすいので毎日のバイタルをチェックし，身体の変化を観察して不調をキャッチすることと思い，実践しています。
- 老人の特性をふまえた上で常に先入観にとらわれずに新鮮な目で見る，護るという看護本来のものを忘れたくないため観察を大事にしている。
- 病気に対する症状が不明瞭なことが多いため早期発見が遅れることがないように多方面からの観察判断に心がけている。
- 看護婦という専門職の目で老人の健康チェックと家族への介護指導を行っている。
- 入所者の日頃の健康状態を正しく把握し，異常の早期発見に努めること。
- 利用者の健康管理を基本として，思いやりのあるサービスと処遇。
- 入所者の健康管理にふさわしいプランを作成し，実践することが大切なことだと思います。
- 若い頃のような完全な健康状態に戻れないが，それなりの健康状態でも安心して生活できるよう援助していくこと。
- 健康管理するために看護診断が必要であり，この点が看護職にもっとも求められることだと思う。

##### 残存機能を引き出す，ADLの拡大，自立支援 (38)

- 家庭復帰へ向けての生活リハビリの援助。
- 温かい心と優しさの中で残存能力を引き出す。
- 様々なハンディキャップをもつ老人に対し，ノーマライゼーションの理念のもと，一人一人の残

存機能の回復援助，日常生活の援助を通じ残された人生を心豊かに送ってもらう事を目標としています。

○リハビリ室で歩行できることよりも，生活に密着したりハビリ，自立支援。

#### ADLの拡大・援助，自立支援（5）

○入所者のADLの向上に助けとなること。

○看護婦は本来の看護の原点を見だし疾患の理解と，老化の両方を見極めながら，ADLの活性化に努めたいと思っています。

#### 安全（27）

○転倒などにより骨折することで，在宅介護が困難にならないように。

○生活の場であり，安心・安全を保障し，やすらぎの場であるように努める。

#### 援助はするが必要以上の手助けはしない（14）

○ADL向上のための援助はするが必要以上の手助けはしない。

○「目は離さず，手は出さず」を職員だけでなく家族にも理解してもらうこと。

#### ニーズの充足（13）

○老人の疾患，障害の状態や程度に応じたケアニーズやケアの方法の選択についての判断する能力を持って，安全を確保しながら危険を回避し，自立をめざした方法で看護介護していくこと。

#### 合併症の予防（8）

○褥創を作らない。

#### 寝たきりの防止（8）

○寝たきりにしない。

○老人の個々の身体的状態，病状を観察し，寝たきりをなくすよう全員離床に心がける。

#### 水分の補給と排泄の管理（5）

○水分の補給と排泄の管理。

○オムツはずしに努力する。

○排便コントロール。

#### 身体的苦痛の除去（4）

○入所者の身体的苦痛の除去と精神的安定を図る。

○苦痛の緩和。

### 緊急時の対応（3）

○複数の疾患を持っていたり、高齢者のため時に急変することもあり、救急処置に対応できること。

### 施設内感染の予防（1）

○清潔，感染予防対策。

## 2) 入所者の精神的ケアに関すること

### 入所者との信頼関係を築く（48）

○入所者との対話による人間関係。心を許して打ち明けてくれなければ、身体的・精神的なことを理解できず、看護・介護はできない。

○老人看護そのものの確立が充分ではない現時点においては多くの問題を抱えてはおりますが、老人心理の理解とその看護に重点を置くように指導しています。生活リハビリの意欲低下、「生」そのものへの意欲減退等が疾病のみならず、生活全般に大きな支障を与えていることがあります。まず老人心理を理解しようとする看護側の姿勢をもつ事、その問題を一緒に悩み、受容し、信頼関係を樹立しながら解決法を一緒に考えていこうとする対応が重要であると考えます。

### ○心の通い合うケア

○入所者に楽しく安心して過ごしてもらうため、話をよく聞き、相談相手になり、一日も早く仲良しになれるように気をつけている。

### 生きがい作り（40）

○老人の生き甲斐である。生きていて何か喜びを感じてくださるような生活の工夫に心がけている。

○日常生活動作能力の低下した老人が施設においても生き生きとした生活ができ、生き甲斐を見つけられ、生活意欲が高められるように精神面のフォローに心がけている。

○老人の日々の楽しみや、生き甲斐作りを援助することを重要視。医療は最小限にとどめておきたい。

○入所者のQOLを一番大切にしている。人生の最後を少しでも快適に生活していただけるように、また、できるだけ自立した状態でその人らしく生きられるよう援助する。

○老人が人間として自ら生きる事への援助であり、安心して楽しく生き甲斐を持って生活していけるように援助する事が一番大切であると考えている。

○寝たきりの入所者にもレクリエーション・散歩等に参加させ、言葉をかけ、笑顔をみられるように努力しています。

### 話をじっくり聞く（40）

- よい聞き手となり、明るく笑顔で接すること。
- 当施設での看護・介護の勤務体制を生かし、人間関係の信頼度を高める姿勢。入所者とのコミュニケーションを密にし、常に声かけをし、サービス面の向上に努める。
- 入所者に楽しく安心して生活を送ってもらうために話をよく聞き、相談相手になり一日も早く仲良しになれるように気をつけている。
- 一般状態の観察をはじめとして老人の訴えを時間をかけて聞いてあげること。

#### 入所者の過ごしやすい雰囲気づくり (39)

- 明るく、優しく、常に笑顔で接するということをモットーにしている。
- 家庭的な明るい雰囲気をモットーに楽しく日々を過ごしてもらうよう心がける。
- 入所者がこの施設を利用してよかったなあと思えるような、暖かく明るい愛情にあふれた優しい看護が必要だと思う。家族と離れて暮らしている入所者に「もう一つの家族がある」と思えるような看護をしたい。
- お年よりの方と接する場合、やさしさと思いやりを大切にしていきたいと思います。医療での技術的な面に関しては満足いくものでなくてはならないと思いますが、精神的な面での援助も行い、看護婦という立場上総合的な角度から個々の老人について把握していけたらと思っています。
- やさしさ。
- 入所された方が一日でも早く生活のリズムを作り慣れていけるよう、声掛けやスキンシップを取れるよう努力しています。地元の方が多いので親しみを込めて土地の言葉を使うように心がけています。
- 規則にとらわれず、明るく、自由に生活できるよう心がけている。

#### 悩みや不安の解消 (24)

- 老人になると特に淋しいとか孤独になりがちなので、常に声かけに努めたり、話し相手になり心配事、悩み事を聞いてあげるよう心がけ、ケースバイケースで対処しています。
- 入所者の状態（家庭環境、性格など）を把握し、不安を取り除くよう話し相手になって、心が和むように取りはからうこと。

### 3) 入所者の社会生活の援助に関すること

#### 家庭復帰への援助 (52)

- 当施設では「家庭への復帰の支援」及び「家族の支援」を第一に考え対応している。
- 家庭復帰への援助活動として病院からすぐ入所してくる場合が多いので、リハビリなどに誘導し、身体面・精神面において、自信をつけて家庭生活が送れるよう、本人・家族のよき相談相手となりうることだと思っている。
- 家庭復帰が出来るように援助したい。しかし家族との関わりが関係するため、その辺が難しい。

- 自立支援、在宅復帰へ本人・家族の方向性を持たせることが老人保健施設では出来るので、その目標に向けてスタッフも取り組む。
- 老人保健施設で出来ること、出来ないことをふまえて、お年寄りが出来るだけ住み慣れた家で長く暮らせるにはどうするか、個人個人にあった援助を考えていく。
- 施設看護においては家庭復帰に向けての自立を支援することが最も大切であると思っている。そのためには個別的なプランの作成・実施・評価をし施設から家庭に継続できるような看護が大切である。
- ADLの拡大とQOLの向上に努め、人間としての尊厳を重視し人間らしく生きることができるよう支援すること。そのためには入所者個々のニーズにあった看護・介護が必須である。患者中心の看護で一日も早く家庭復帰ができるように援助すると共に在宅支援に努めたい。

#### 入所者と家族の結びつき (36)

- 家族と入所者の関係づくり。家族同士をつなげる役割。
- 家族と入所者の絆をしっかりと結びつける役割も果たさなければならぬと考えます。
- 入所者と家族の信頼関係を保つ事により、人生の最後をお互いが悔いなく過ごせるよう手助けして行ければと思っています。

#### 長期入所にならないように入所前面接を行い入所の目的を明らかにする (4)

- ショートステイとデイケアを中心に考え、長期入所ははっきりとした目的のない限り、できるだけ受けることのない様、入所前やサービス利用前の面接に重点を置き家族指導を行う。
- 入所時に入所の目的を家族と共に明確にし、中間施設としての役割を果たす。その為には「自立への援助」を一番に考え、残存機能を引き出し、利用できる社会資源をコーディネートし、本人及び家族にとっての最良の方向で看護していきたい。

#### 短期間でも在宅に戻れるようにする (3)

- 家族との連携を密にして、寝たきりでも少しの間、家へ帰れるようにする。

#### 4) 入所者の人権に関すること

##### 個別性のあるケア (81)

- 入所者個々の人格を尊重し、個々の身体的、精神的、社会的状況に適した援助をすること。特に、快適な療養生活ができるように、また、ADLを維持、向上させ在宅での生活が可能となるようにその人のペースに添い援助する。
- 何を望んでいるのか、個別性を重視した看護を大切にしたい。
- 病院では看護婦と患者という関係であるが、老人保健施設では人間対人間としての対等な関わりができ、ふれあいを大切にしている。

- 老人をトータルに理解し、常に患者の立場に立ち、より人間らしく生活が送れるように支持し、個別性を重視したケアの提供を行い、患者及び家族から信頼される看護を大切にしています。
- 個々の入所者の方々がその人らしく生きる、生活していただくための看護であって、医療管理するための看護であってはならないと思っています。
- 相手の心に添うこと。
- 老人の個性をしっかりと受け止める。
- 入所者一人一人の個性を大切にしその人にあった声掛け、話し方に気をつけ、高齢者に起こりうる身体の変化を早期に判断し対処することが看護婦として大切であると思います。
- 入所者のその人らしさを大切にしたい。
- 対象者が高齢者であり、また痴呆や障害を有するため、個別にあったケアを実践する。
- 全人的にとらえた「生活」を含めたケア。
- 一人一人の生活がそれまでの継続性を留意したものであるように生活環境を整えていくとき、「気配り」が大切なことであると思う。
- 老人のペースをもっと大切にしています。
- 一人一人のお年寄りがこれからの人生をどう生きていけば幸せなのか、そのために看護はなにをすべきか、またなにができるのか、どこまでできるのかということを考えつつこの仕事に携わっていきたい。
- 入所者の一人一人のニーズを大切にしています。
- 身体面・精神面・社会、経済面・地域の中で老人がどのような状況に置かれ、なにを求めているのか観察し、的確な判断に基づいて対応すること。

#### 入所者の意志を尊重する (34)

- 入所者の訴えをよく聞き、笑顔で接する。
- 老人としてではなく一人の人間として認め、優しく個々に応じて接する。
- いわゆるインフォームドコンセントをはかりケアを展開していった時、入所者の混乱、不安、半信半疑等も解消されると思う。
- お年寄りが施設に入所することをどのように考え、受け止めているかを考え、家庭にいるときのような雰囲気を作る。
- 人間の尊厳とは、を軸にお年寄りの自由とプライバシーの確保をしながらケアに当たる。

#### 老人を人生の先輩として尊敬し子供扱いをしない (27)

- 人生の大先輩として尊重して対応する。
- 長い人生を経験し、それなりのプライドを持った方として、個々の人格を尊重することを大切にしています。
- 老人を人生の先輩として尊敬し、思いやりのある看護にあたる。

- 入所者の人間としての尊厳を守ること。
- 高齢者の生活歴や、社会背景をふまえ、長い人生経験の豊かな人間として尊重する。
- 老人保健施設で「看護」という言葉にはやや抵抗がありますが、あえていうならばお年寄りを大切に作る心だと思う。

5) 看護職・介護職の専門性を生かすこと

介護をする上では看護婦も介護者も平等、互いの専門性を生かす (16)

- 介護と看護の職務内容は分ける必要はないが、慢性疾患、高齢者（特に90歳以上）の入所する比率が徐々に多くなってきている。現在、医療を実施する立場にいる看護婦は介護の情報を真剣に受け止める姿勢が必要である。
- 看護の基本である介護に関しては介護スタッフと同様に実施することで介護スタッフとの上下関係をなくし、横一線で対等な立場で仕事をしているため、互いの専門性を生かし認め合い、協力して看護・介護の質の向上に努力していること。
- 看護・介護の一体感
- 看護婦と介護職員は縦の関係ではなく、同じ老人ケアに関わる一員として横の関係として捉え、看護と介護の連携こそが一番大事だと考えています。
- 介護福祉士、一般介護員はナースと違って生活にあったアイデアがあり、行事などで学ぶことが多い。
- 介護職とのチームワーク。
- 介護福祉士、一般介護員はナースと違って生活にあったアイデアがあり、行事などで学ぶことが多い。
- 介護職とのチームワーク。

ミーティング、カンファレンスの時間をとり、他職種と話し合いの時間を持つ (14)

- ケアカンファレンスを通して、看護・介護職員が一体となって、看護・介護の実践ができる能力を付けること。
- 入所者に対し安心して過ごしていただけるように、入所時の病歴や気にかけていることなどを介護職員と話し合います。

介護を重視 (5)

- 入所者のほとんどの人が自宅へ帰ることを望んでいらっしゃるが、実際には家庭の事情で無理。面会も少ない。そこで看護よりは介護面を重視し同じ目の高さで接するように努めている。
- 看護の原点は介護であるということ。

6) 看護職としての心構えに関すること

心のこもったケアをする (49)

- 自分自身の看護観を大切に思い仕事をさせていただいています。
- 病院での看護業務が長かったのでその習慣がとれず、いつも忙しく動き、入所者との対話ができない。ゆっくりと話を聞いてあげることが大切にしている。
- 看護・介護の原点は同じであり、日常生活の援助の中で、思いやりを持って行うこと、そして自分も楽しむこと。
- 思いやりの心で、入所者に自分の家族にしてほしいと思うケアを実践すること。
- 人の命の大切さを重んじ、真心で看護・介護する。
- 看護はサービス業であることを忘れずに常にカウンセリングマインド的態度で接する。
- 看護とは技術的によければそれでよいというものではないと思う。誰にでも身体のお世話はできる。大切なのは身体の世話の後ろに隠されているもっと大きな心遣いのできる看護でありたい。

自己研鑽をする (8)

- 種々の問題を持つ老人に対しての精神的ケアが一番必要と思っています。そのためには看護婦自身が常に自己啓発につとめることが不可欠と思われれます。

自分の生き方を問われる仕事 (5)

- 人間の生き様を問われる仕事なので、自分が入所者とどう関わるかの姿勢を大切にしている。

一人で判断せず些細なことも申し送る (3)

- 些細なことでも見落とししたり、それが基で大事に至らないように看護婦一人の判断でことをすませることなく、些細なことでも申し送り複数で観察する事により早めに対応するよう心がける。

看護者自身の健康管理 (1)

- まず看護婦自身が心身ともに健康であること。その上で老人の特性を知り、ゆっくりと看護に当たりたいと思います。

7) その他 (2)

- チームの和。看護職員以外の人とのつながりを大切にする。
- 職員間の相互理解。
- 介護職への指導。
- 老人が地域の中で人生を生き生きと全うするためにあるという施設の役割を理解していること。